

そばに置きたい



変化を楽しむ白木のパン皿

何も塗っていない木材を白木といいますが、紹介するのはケヤキ材に何も塗らずにつくった白木のパン皿です。

ケヤキには漆を塗るといいますが、木工の世界では常識です。湿度の高い日本では白木のままではカビが発生しやすいし、長期間の使用に耐えられるようにするためです。

でも、知人宅で白木のパン皿を見て、その美しさにはれました。ぜひ再現したいと思って、私が製作を依頼したのが、富山県砺波市で「わたなべ木工芸」を営む渡辺章司さんです。家業を継いだ2代目で、木工の文化を絶やさないために、専門学校にも通って技術を習得した努力家です。そういう渡辺さんなら良い物をつくってくれるだろうと思



いました。また、ケヤキの材を入手しやすい環境だったのも後押ししました。

「漆を塗らずに売れるのか」という声もありましたが、若い人を中心に売れました。私も使っていますが、毎日使っているうちに、パンに塗るバターが自然と溶け込み、味わい深い色合いになります。

使用後はお湯で丁寧に拭き取るなど一手間をかければ、変化を楽しめることを知りました。

木工の常識では考えられない作品ですが、変化や温かみといった漆塗りととはまた違った良さを感じられる作品だと思います。

（手仕事フォーラム代表
久野恵一）

ケヤキのパン皿 税抜き2800円。縦15センチ、横22センチ。材料により色合いが異なることがある。問い合わせは久野さんが関わる民芸店「手しごと」(電話03・6432・3867、火曜定休) 外山亮一撮影